



稲荷神社神幸祭



鬼

天 狗と鬼に囲まれ、涙を流し、子どもたちの泣き声が沿道に響く。古くから飯土井神社の神幸祭で見られる、珍奇な光景。「泣く子は育つ」より強く、よりたくましく育って欲しいとの願いを込め、天狗と鬼が神輿と山笠を率いて、地域の子どもの健康を祈願する伝統行事だ。暑さの残る秋晴れの2日間。華々しい4基の山笠が神崎地区を練り歩き、御旅所では可憐な巫女が舞いを奉納した。伝統と地域を愛する住民が作り上げた2年ぶりの神幸祭は、老若男女問わず心を熱くし、今年もまた神崎地区の絆を強めた。

髪 を振り乱し舞う雌雄の獅子と、色鮮やかな衣装に身を包んだ稚児が楽を打つ。社殿と正面にそびえる銀杏との間で、金田一区伝統芸能保存会による獅子楽が、今年も厳かに奉納された。ご神体を乗せた神輿を先頭に、各地域で出発の儀式を済ませた6基の山笠が守護し、稚児行列も付き従った。日本各地からこの日のためだけに帰郷するほど、氏子たちが愛する神幸祭。神事やしきたりなどの伝統行事を大切にしながら、祭り本来の姿を失わずに受け継いできた。古きを尊ぶ心と故郷を愛する心が、伝統をさらに進化させていく。

舞

